

審査の結果の要旨

氏名 アブデッラー アフラド

本研究の目的は、密集地域における都市緑地の不足に、鉢植えのストリートガーデン（以下、PSG）を使用して対処できるかどうかを調査することである。都市緑地が都市生活のあらゆる側面にもたらす恩恵は、特に開発途上国での都市人口の増加に伴い、ますます多くの都市居住者に影響を与えるものとなっている。

したがって、都市緑地の所有権と近隣の知覚、一方の人間の健康と行動、および近隣の通りのPSGの存在と近隣の物理的および社会的特性に対する部外者の知覚との潜在的な関連を調査している。1人あたりの緑地が少なく(0.27)、PSGが豊富なため、モロッコのタンジールにあるベニマカダ地区を調査地域として選択した。政府のプログラムが密集地区でのPSGの所有権を奨励した後、調査参加者の3分の2以上がPSGを開始したため、調査領域は興味深いケーススタディも表しています。近所の緑の知覚を大幅に高めるPSGの機能により、景観を単に緑化するだけでなく、正式なUGSと同様に近所の知覚と地域の健康と行動に影響を与える可能性があるかと仮定しました。したがって、この仮説を検証するために横断研究と遊歩道実験を使用している。

横断的研究としては、PSGの所有権と近隣の知覚、人間の行動、健康に対する直接的な関連と節度の影響を調査することを目的としたものであり、実験の目的は、近隣の社会的および物理的特性に対する部外者の理解を調べ、それを地元の人々の認識と比較することであった。調査データ分析の結果から、PSGの所有権は、予想よりもはるかに複雑で複雑な関係にあることがわかっていく。PSGの所有権は、近隣の知覚変数と主に正の関連を示している。

また、PSGに関連する変数は、一般に近隣の知覚に積極的に関連していることが明らかとなった。8つのうち、2つの変数のみが近隣の知覚に否定的に相関している。一方、参加者は地元住民の関係をより良く認識する可能性が3倍、少なくとも2.5倍、そして5倍であることから、PSGがある通りで遊歩道を楽しむ可能性が高くなっている。これらの結果は、PSGの所有権を奨励することは、密集した地域の恵まれないコミュニティの非合法化に役立つツールである可能性があることを示唆している。

PSGの所有権と保護する領域との関連はさまざまであり、生活満足度との相関や、知覚される安全性との関係に対する強化効果があった。5つの有意な相関関係のうち、2つだけが正であったため、PSGに関連する変数は、近隣の愛着と向社会的行動に主に負の関連があった。これらの結果は、PSGが利他的行動を誘発するのに十分重要な社交活動の場を提供する可能性があることを示唆しており、PSGのない前庭とPSGのない前庭の見かけの清潔さを説明している可能性がある。ただし、PSGの所有者は安全が確保されている場合のみ、より多くの領域を保護する責任があると感じたため、この関連付けは、潜在的な違反者からの保護など、安全に重大なリスクをもたらす可能性のある行動にまで及んでいなかった。

本研究ではいくつかの興味深い結果が出ている。これまで、PSGに関連する研究の大部分は主に日本で行われたものが多かったものの、発展途上国でのPSG研究の推進に大きな影響をもたらすものである。

さらに、PSGの導入前後に、定義された近隣の地元住民と部外者の認識を評価する実験を実施し、より大きなサンプルサイズを使用して長期的なデータを収集し、近隣の清浄度、安全性、騒音の煩わしさ、社会的関係の漸進的な変化を追跡することは新しい研究手法の確立の萌芽がみられるものである。

上記のような意義を考慮すれば、本論文は博士（工学）の学位請求論文としての水準に達していると考えられる。よって、本論文を博士（工学）の学位請求論文として合格と認める。